

## リコーダーの取り扱いについて

この度はプリスコット リコーダーをお買い求めいただきありがとうございました。プリスコット リコーダーは洗練された手技、技巧によって作られており、適切な手入れをすることにより最良の状態を維持することができます。正しいお取り扱いと注意事項について、以下の説明をお読みください。

### 慣らし方

方法： 新品の木製楽器は、最初の数ヶ月間はひびを防ぐために特別な取り扱いが必要となります。使い始めて最初の15回は一日に30分以上は使用しないでください。その後16回目から20回目にかけて使用時間を15分ずつ増やし、一日2時間まで使用時間を延ばすことができます。一日2時間以上のご使用はお勧めしません。

理由： 使用時にはリコーダ内部の湿度が高まります。リコーダー内部が外部に比べ高湿度になると外部は膨張せず内部分だけが膨張することになり、木製のリコーダーに負担が掛かることとなります。この負担がひびの原因となりやすく、特に頭部管が割れやすくなります。リコーダーに塗布されている亜麻仁油がリコーダー内部の湿度の吸収を遅らせますが、最初の数ヶ月に使用時間を制限し、リコーダーの湿気吸収を徐々に行い、リコーダーへの湿気による負担を軽減することは重要です。

### 発声調節（リボイス）

本店で発声調節を行いますので、よく吹きならされたリコーダーを購入から一年以内に本店へ一時返却してください。発声調節は新しいリコーダーには通常に行われるサービスで発声調節をすることにより最高の音を奏するようになります。

### 注意事項

リコーダーは室温で保ち、極度の高温や高湿度を避け、直射日光にはさらさないようにしてください。リコーダーはなるべくバッグやケースから出した状態で乾燥させるようにしてください。リコーダーが凍結するのを避け、リコーダーが冷たくなっている場合はゆっくりと室温に戻してください。

**使用前後の注意：** 使用前に、特に部屋が寒い場合は頭管部を体温まで暖めてください。使用後は、自然乾燥をさせるためになるべくケースに入れずに保管してください。管の内部を乾燥させる必要はありませんが、水分を拭き取りたい場合は、長めの棒の先に布を付けるか綿棒を使ってください。水分を拭き取る時は、ブロックをくぼませないように気をつけてください。また、モップのように毛立ちのある物は、管内部に繊維が残り音源に影響を与えますので使用を避けてください。

**接続部の手入れ**：ほぞ（挿し入れる部分）には、ワックスを塗った絹糸が巻かれています。そこにはコルク油はつけないでください。リコーダーを組み立てたり分解するときはねじるように行ってください。接続部がゆるんでいる場合は、1メートル以上の絹糸をほぐし、巻きなおしてください。巻き直した後は、糸が元のように圧縮されていませんので、接続する時にゆるみが解消されます。糸の終端は爪先で優しくなでるようにして見つけることができます。糸の終端は直角に折られていますので見つけやすくなっています。接続部がきつすぎる場合は、糸をはずし切ってください。切った後は、終端を指先で軽く押させるだけで引っ付きますが、引っ付かない場合は、蜜蝋（みつろう）を少し付けてみてください。終端を留めるために糸の下に巻き込まないでください。終端が見つけられなくなります。糸を取り替える場合は、糸の巻き始めを溶解可能なのりを使って留めておくと糸のほぐれや接続部が接着してしまうことを防ぐことができます。

**湿度**：冬は部屋が乾燥しすぎることがありますので、部屋が適度に加湿されていない場合はケースごとビニール袋に入れて保管することをお勧めします。水に湿らせた綿を楽器の保管されているビニール袋の中に入れておくだけで十分な湿度を供給します。リコーダーを湿度の高い場所で密閉した状態で長く保管するとカビの原因になりますのでご注意ください。可能であれば、木管楽器の保管は、湿度が40～50%に空調された場所が最適です。

**洗浄**：楽器の洗浄が必要な場合は、液体の食器洗剤を溶かしたぬるま湯（38℃程度）で洗ってください。自分でできるのであれば、ブロックは洗う前にはずしてください。管の内部の洗浄は、綿棒か柔らかな瓶洗いを使ってください。きれいなぬるま湯ですすぎ、十分乾燥させてください。楽器を15分以上水につけた状態にすると、木や仕上げを傷める原因となりますので、洗浄は15分以内に終わるようにしてください。キーやコルク部、糸が巻かれた接続部は濡らさないようにしてください。数時間乾燥させた後、管の内部に油を塗布してください。

**詰まり**：リコーダーを最初の数ヶ月間で適切に慣らし、使用前に室温まで暖めれば、詰まりを緩和させることができます。しかしながら、リコーダーを吹く時間の長さに関係なく、ウインドウェイに水滴がたまることは正常です。もし詰まったら、窓を手でふさぎ、吹口から強く吹き込むか、吸ってください。詰まりが解消しない場合は、3倍に薄めた食器用液体洗剤を用意してください。ただし、ラノリン（羊毛脂一革の手入れにつかわれるもの）が入っていない洗剤を使ってください。米国ではJoy、Sunlight、Dupenolなどが使えます。この溶液を鳥の羽でウインドウェイにつけて乾燥させてください。これで水滴が流れ落ちやすくなるはずですが、それでも詰まりが解消されない場合はリボイスをする必要があります。リコーダーに油を塗布した後に詰まり易い場合は、2日ほど様子を見てください。詰まりの問題は改善されるはずですが。

**白カビ**：白カビが発生したら、ケースに入れずに保管してください。そうすることでリコーダーが乾燥し、白カビの増殖を防ぎます。白カビを取り除くためには、カビの生えた部

分に綿棒で酢をつけて5分間放置してください。その後、前に説明した洗浄の方法でリコーダーを洗ってください。

**油塗り：**使い始めから1年後、その後は2－3年おきにアーモンド油を管内に塗布してください。アーモンド油の小瓶は提供されています油を塗布する前にリコーダーがきれいに洗浄され乾燥されているかを確認してください。（塗布する前4時間はリコーダーを使用しないでください。吹き込まれた湿気が油の吸収を妨げてしまいます。必要であれば、説明した洗浄方法でリコーダーを洗浄してください。ブロックやキーの取り外しができそうであれば取り外してください。管の内側、トーンホール、ソケットには油を厚く塗ってください。リコーダー外部も塗装を保護するためにも油を塗ってください。象牙の接続部、糸の巻かれたほぞ（挿し入れる部分）、キーやタンポの部分には油をつけないでください。管の内部に油を塗布するときに、ブロックの下向きの側面(窓に近い部分)にも油をつけてください。ブロックの唇があたる部分に油をぬっても危険はありませんが、避けたほうが良いでしょう。油をつけて油が浸み込むまで1時間から2時間は待ち、余分な油は拭き取ってください。2時間待った後に、油が完全に浸み込まれ、余分な油が表面に残らないようでしたら、この油塗りを2ヶ月置きに繰り返す必要があります。2時間待って油が表面にいくらか残るようになったら十分に油が浸み込んだということです。

**ウインドウェイの内部の油塗り：**ウインドウェイ内部は、ブロックを外さずに小さな羽根を使ってアーモンド油をつけることができます。塗布した後、1時間ほど待ち、余分な油はきつく巻いて平らにしたタバコの紙を使って吸い取ってください。

**ブロックの取り外し：**ブロックをご自分で取り外しになる時は、15mmの合わせ釘を使って取り外す方法を経験のある方に教えてもらってください。ウインドウェイの内部上側にアーモンド油を羽を使ってつけてください。ブロックでふさがれている管の内部にも油を塗ってください。塗った後は1時間ほど待って余分な油を拭き取ってください。そして優しく指でブロックを押し戻し、残りの部分は、手のひらに持った25mmの合わせ釘で完全に押し戻してください。完全にブロックが戻らない場合は、合わせ釘の側面を木か生皮のハンマーを使ってコツコツとたたいてみてください。誤って吹口の先を破損する恐れがありますので、気をつけて慎重にこの作業を行ってください湿度が高くなり始める春から夏にかけての季節はブロックが自然にゆるみますので、ブロックの取り外しや入れ替えはこの季節が最適です。また、この作業をする前の数日間に使用を避けていただくと乾燥して作業が簡単になります。ブロックの取り外しや挿し込む方法は経験のある方に指導を受けることが重要です。もしブロックやリコーダーが破損したり壊れたら、修理費は高いものになります。

## 問題が生じた時

**修理と発声調節：**リコーダーの発声機構、ブロックには触らないでください。発声調節、修理は、ここ **PRESCOTT WORKSHOP** で行うようにしてください。このリコーダーのウインドウェイの縦沿いの屈曲は精密に彫られており、その屈曲は維持保存されなければなりません。不適切にブロックを紙やすりで磨いたり、けずったりすると発音が破壊されます。

破壊された発声の修理は100ドル以上はかかりますが、保証には含まれていませんので自費払いとなります。通常の発声調節と調律は、最初の一年は無料で行います。ひび割れなど大がかりな修理には時間がかかりますが、その他の修理と発声調節は楽器が届いて2日以内には完成します。

ひび割れ：余程のことがない限りひび割れはしませんが、万が一ひび割れが生じた場合はすぐに連絡してください。ひび割れの部分にほこりや油が付かないように保存してください。

質問：楽器についての質問は電話、電子メール、郵便で受け付けています。経験の浅い人からの誤った情報を避けるために、私達からの正確な情報を基にしてください。

楽器の返却：米国外からの返却は以下の指示に従ってください。

- 楽器の返却はトラックができる配送方法を使ってください
- 楽器の価値に相当した保険をかけてください。
- 関税用の荷札には以下のように明記してください。"**Instrument being returned to the maker for repairs; will be returned to owner after their execution**" 「楽器の修理のために製造者に一時返却：修理完成後は所有者に返還」
- 荷造りされた箱に通商価値がないことを示すために "**No Commercial Value**" または "**(N.C.V.)**" と記してください。また、内容価値を米ドルで書くように要請されたら **1,200** ドル以下の値段を記入してください。修理には関税がかかりませんが、**1,199** ドル以上の価値を示すと高額な手数料がかかる正式な通関手続きを申請しなくてはなりません。

修理が済みこちらから発送する場合も、お客様に余計な関税に関する手数料がかからないように、「修理済み楽器、所有者に返却」と意味する"**instrument being returned to owner after repairs by maker**" を記入します。

著作権 2012

**PRESCOTT WORKSHOP**

14 Grant Road

Hanover, NH 03755 USA [www.prescottworkshop.com](http://www.prescottworkshop.com)

電話番号: 603•643•6442 Fax: 603•643•5219 メール: [recorders@aol.com](mailto:recorders@aol.com)